

巻頭言

医療科学部長 竹田 徳則

大学の果たすべき使命として、教育、研究、社会貢献が示されています。このうち社会貢献は、中央教育審議会の答申（2005年）において第3の使命として打ち出されました。その後教育基本法の改正（2006年）や学校教育法の改正（2007年）では、教育と研究の成果を社会に提供し、社会の発展に寄与することが大学の役割として規定されています。

「開かれた大学づくりに関する調査研究報告書」（2017年度）によると、調査に回答した658大学における地域貢献活動の上位は、公開講座実施が97%、学外での講座講師派遣が91%、学生の地域貢献活動実施が85%で高い割合でした。また、学生の地域貢献活動では、地域産業活性化と教育や健康福祉に関する活動が多い傾向が報告されています。

本学でも各学部において様々な取り組みがなされているなか、2022年4月に設置された医療科学部では、「地域住民の健康の維持と増進、疾病と障害の予防に対し、専門知識と技能を生かして社

会貢献できる理学療法士・作業療法士の育成」を教育目標に掲げています。その具体化として、専門関連科目による知識と技術の修得はもとより、健康科学部が発端の地域高齢者対象の「名女健康サロン」の運営を本学部の学生と教員も2022年から担当しています。

また、医療科学部にはこれまで各機関と連携を図り、介護予防や健康増進に取り組んできた教員が多く在籍しています。この強みを生かし学生教育と地域貢献活動の一環として、瑞穂区内の保健福祉関連団体と調整を図り「健康アップ教室」を本年6月から実施します。この取り組みを推進する懸案事項は学生に主体的・積極的に学ぶ姿勢を持たせることです。それは先の調査報告書によると学生の参加意欲を高める工夫が課題であると半数の大学が回答しているからです。これを乗り越えるべく、学生が地域高齢者との交流を通じて高齢者に対する理解を深めるとともに地域での理学療法士・作業療法士の役割を知る機会とし、将来介護予防と健康増進に寄与できる基礎を修得できる充実した貢献活動にしていきたいと考えています。

● 健康科学部・医療科学部

令和5年10月22日～令和6年2月24日(計5回)開催

名女健康サロンの開催

今年度の名女健康サロンは、昨年度に引き続き「今日からフレイル予防 de 介護予防」をテーマに、健康科学部と医療科学部4学科合同で瑞穂区在住の高齢者30名を対象に、年間5回を企画、実施しました。

第1回の「自分のバランス能力を知る！ 識る！ 強くする！」は理学療法学科の企画で、ご参加の方にまずバランステストに挑戦していただき、その結果の振り返りとともにバランス改善運動を紹介しました。当日は快晴の屋外で参加者と学生、教員と一緒に体を動かし、さわやかな時間を過ごすことができました。

第2回「さあ、始めよう、今から認知症予防！」は作業療法学科が企画しました。握力測定と認知症チェックを行った後、握力とフレイルの関わりや、認知症チェックリストの解釈について、専任教員のミニ講義を聞いていただきました。後半の茶話会ではビンゴゲームとコグニサイズを作業療法学科の学生が進行しました。

第3回看護学科主催の「楽しくフレイル予防しましょう」では、看護学科の学生のエスコートで、歩行分析、骨密度と血圧測定を行

いました。さらに、昔懐かしい「歌あて」ゲームや間違い探しなどの脳トレクイズ、体操などの多彩なアクティビティで学生とともに楽しんでいただきました。この第3回までの講座では、担当学科の学生以外に他学科の学生も参加し、各々の医療専門職について理解を深める機会となりました。

健康栄養学科が担当した第4、5回の「学生と一緒に、食レクリエーション！」では、健康栄養学科の学生からフレイルを予防する食事を紹介し、学生が考案した5品の料理と一緒に作って食べることを楽しんでいただきました。

今年度も参加者の反響は大変大きく、「来年もぜひ参加したい」との声がたくさん聞かれました。

(文責：山中なつみ)



第1回
参加者全員でバランス改善運動(理学療法学科)



第2回 茶話会でのコグニサイズ(作業療法学科)



第3回 脳トレクイズ(看護学科)



第4回 食レクリエーション(健康栄養学科)

●医療科学部 令和5年10月実施

名古屋市 高齢者はつらつ 長寿推進事業(コスモス) への参加

作業療法学科2年生が、地域作業療法学演習の一環として、社会福祉協議会の協力を得て、瑞穂区的一般介護予防事業に参加しました。2グループに分かれ、制作活動(セラバンド入れ作り)又はレクリエーション(棒サッカー)を行いました。地域の高齢者の方々とふれあいを通して、地域リハビリテーションの実際と、コミュニケーションの仕方を学ぶことができました。この他にも瑞穂区内の就労支援B型事業所を見学し、地域連携の実際を学んでいます。

(文責：山下英美)



完成した作品を手にとりこり!

●文学部 令和5年12月15日(金)開催

瑞穂区役所 区民向け クリスマスミニコンサート

12月15日(金)13時より、瑞穂区役所の屋外講堂階段前でクリスマスコンサートを実施しました。ハンドベルコンサートは、越原学園と瑞穂区役所の連携協力事業の一環として、はじめての試みとなりました。音楽教育・表現ゼミナール、ハンドベルクラウンツにとっても、演奏の良い機会をいただきました。ハンドベルの音色は天使の響きとも言われており、クリスマスのキャロル等なじみの深い曲を演奏しました。当日は、あいにく雨模様の日となってしまいましたが、心待ちにしてくださいました。ハンドベルの響きに心癒されるひと時となりました。

(文責：坪井真里子)



心癒されるハンドベルの響き

●家政学部 令和5年11月18日(土)開催

2023名古屋エシカルフェア

消費者教育ゼミの3・4年生9名が、11月18日に名古屋で開催された「名古屋エシカルフェア」にパネルと焼き菓子を出品しました。この焼き菓子は、「ブルドネージュ」と呼ばれる、口の中でホロホロ感のある生地に和三盆糖、抹茶などの甘い粉末をまぶしたまん丸い一口大のクッキーです。また、商品に添えるチラシにはパティシエを目指して働く人の夢を応援するメッセージを書き、来場者にエシカル消費の理解と支援を求めました。オリジナルコラボシールを貼り、優しくかわいく仕上げた商品の提供は多くの方々から賛同が得られ、すぐに完売しました。

「名古屋エシカルフェア」への出展は、今年度のゼミ活動テーマ「人にやさしいエシカル消費」を実践研究するなかで、特に障害がある方の自立を支援するため、社会福祉施設と協働で商品開発に取り組んだ成果です。これからもゼミで



屋外ブースで説明している様子



啓発用のパネル

は、エシカル消費の取り組みが多くの人に役立つことを願って、名古屋市や地域と協働し積極的に活動していきます。

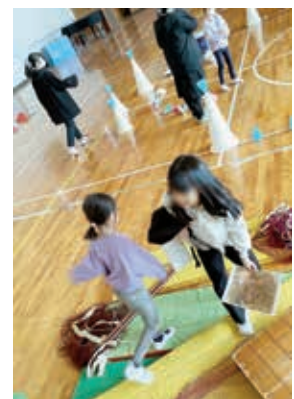
※エシカル消費とは、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のことです。

(文責：三宅元子)

●文学部 令和5年度実施

名古屋土曜学習プログラムでの土曜授業

土曜日、小学校に児童の笑顔と学びがあふれました。今年度も名古屋市立の宝小学校、中小田井小学校、豊岡小学校で楽しく、ワクワクする体験授業を児童教育学科の教員(小椋、高橋、坪井、稲木、堀、山本、倉田、吉川)が行いました。大学での各分野の専門性を生かした普段と違う授業と学生ボランティアによるサポートで児童は土曜授業にひき込まれます。児童教育学科の1年生から4年生までの学生40名が、授業のない土曜日にボランティア活動として名古屋市の小学校の土曜学習の補助や支援を行いました。このような児童と関わる体験は、児童の理解や児童に教える喜びを知る機会となっています。教員を目指す学生は積極的に土曜いきいきサポーターとして参加して、教員への思いを強める場ともなっています。また、参加した児童にとっては、この大学の学びの香りを感ずる体験により、学ぶ楽しさや喜びを知り、将来への思いを強める場となることを期待しています。



名古屋市立豊岡小学校での対話型鑑賞体験講座の様子



講座「アート作品の一部になろう!」

(文責：吉川直志)

● 短期大学部

令和5年11月13日(月)実施

企業主導型保育所との連携交流

令和5年11月13日、保育学科の第三部2年生4名が、歌あそびや読み聞かせ、ゲームなど、子どもたちと一緒に楽しく遊べるような保育を計画し、小規模保育所「じぶんみらい保育園瑞穂通」を訪問いたしました。この園は、令和3年4月に開園した企業主導型保育所であり、0歳から2歳児までの子ども15名が在園していました。コロナ禍の影響もあり、これまで、ボランティアの受け入れを行ってこなかったため、今回の訪問が初めての催しでした。

はじめは緊張していた子どもたちも、学生たちの言葉掛けや考えた遊びを展開することで、次第に笑顔が増えていき、楽しい時間を過ごすことができました。学生たちも、授業で学んだことを活かすことができ嬉しかったよう



2年生4名で行いました



子どもたちが楽しんでくれました

です。また、12月には、田中弘美講師の「保育内容演習（環境）」の授業で学生が製作した絵本と紙芝居を届けたところ、大変、喜んでいただきました。今後も、学生の学びが地域社会への貢献につながる活動を行ってまいります。

(文責：河合玲子)

● 短期大学部

令和5年度から実施

生活協同組合コープあいちとのミールキット開発

生活学科では、令和5年度より生活協同組合コープあいちと連携して宅配ミールキット商品開発を始めました。ミールキットは、カット済み材料と調味料のセット商品です。製造担当の東海コープ事業連合も含めてミールキットの現状や課題をお伺いし、テーマは減塩となりました。学生は減塩だけでなく、塩分を体外に排出する栄養素など工夫をこらした献立を提案しましたが、材料調達・価格、カタログ紙面の問題など商品化までに多くの壁に当たりました。現在は、問題解決に向けて検討し、再提案しています。商品化に向けて引き続き取り組んでまいります。

(文責：阪野朋子)



ミールキット商品の説明を受ける学生

● 総合科学研究所

令和5年10月～令和6年3月(計9回)実施

開かれた地域貢献事業

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」として、瑞穂児童館と瑞穂保健センターとの連携事業は17年目となり、瑞穂区役所との連携事業は6年目となりました。

瑞穂児童館との共催事業では、地域の子どもや保護者を対象とした保育・教育、生活・情報、栄養関係の8つの講座と、12月のクリスマスイベントを開催しました。

瑞穂区役所との共催事業では、瑞穂区の子育て世帯の支援を目的としたレシピコンテストを開催しました。

どの事業にも多くの申込をいただき、地域の方々に楽しんでいただくことができました。また多くの学生ボランティアが参加し、日々の学びを実践したり、地域の方々と交流したりと、良い経験となったようです。



子育て世帯向けレシピコンテストの最終審査会



タブレットを使った幼児向けのプログラミング体験講座

新型コロナウイルス感染症予防のため令和元年度末より中止していた保健センターとの共催事業も、令和6年度以降の再開に向けて準備を進めています。今後とも一層地域との連携を深めながら、安全な地域貢献事業を継続して参ります。

(文責：総合科学研究所事務)

● 公開講座

令和5年11～12月(計3回)実施

人生100年時代。いつまでも健康な生活を送りたい

オープンカレッジ事務室では、毎年、瑞穂生涯学習センターと共催の「公開講座」を実施しています。今年度は「いつまでも健康な生活を～認知症予防・体づくり・食生活をテーマに学びませんか～」をテーマに、令和元年度の実施以来4年ぶりに本学で開催しました。講師陣には健康栄養学科教員1名と、今回から理学療法学科・作業療法学科の2名の教員も加わり、どの回も参加者の笑顔があふれ、活発な質疑応答がある充実した講座となりました。

(文責：今泉佳菜)



自席でストレッチを行う受講者

瑞穂図書館主催講演会に 記念館が協力

名古屋市図書館100周年・瑞穂区制80周年記念事業の一環として、瑞穂図書館が主催する事業に記念館が協力し、12月23日(土) 14:00-15:40、「山崎川周辺いまむかし～越原記念館の資料から～」と題する講演会を同図書館にて実施しました。

郷土の歴史に関心の高い方々が定員を超え会場いっぱいになり、また手話通訳や要約筆記が導入されました。地元で呼んでいた池の別名や紹介した遺跡についての質問もいただき、同図書館と連携し地域の魅力を発信できました。

(文責：越原記念館 鈴木孝子)



講演会に46名が参加

名古屋女子大学・瑞穂図書館共催の クリスマスイベントを開催

12月16日に名古屋女子大学音楽教育・表現ゼミナール「ハンドベルクラutz」と大学図書館「絵本おはなし会」が、瑞穂図書館で『音でつづるクリスマス—おはなしとハンドベルのつどい—』を開催しました。「絵本おはなし会」は瑞穂図書館との共催で毎月1回瑞穂図書館でのおはなし会を開催していますが、この日はクリスマスの特別イベントとして「ハンドベルクラutz」のメンバーも加わって、瑞穂図書館児童コーナーを会場にハンドベルの演奏と読み聞かせや手遊び、パネルシアターなど1時間に亘るコラボイベントとなりました。会場の児童書コーナーは華やかなクリスマスの飾りつけで、ハンドベル演奏のジブリの曲や「あわてんぼうのサンタクロース」では子どもたちも歌やダンスに参加して盛り上がり、クリスマスの雰囲気大いに楽しみました。イベントには延べ120人の参加をいただき子どもたちや大人の方にも大盛況で終えることができ、学生たちにとっても充実した1日となりました。

(文責：尾崎友子)



児童書コーナーでの読み聞かせ



ハンドベルの演奏と一緒にダンス

瑞穂区の将来を考える 学生ミーティングへの参加

瑞穂区内の大学・短大が協力して、令和元年度以来二回目となる瑞穂区役所主催「瑞穂区の将来を考える学生ミーティング」が開催されました。第一回目に引き続き本学からも多くの学生が参加し、家政学部生活環境学科13名、短期大学部生活学科2名が、魅力あるまちづくりについて他大学の学生と意見交換をしました。

「区の特長・魅力」、「子育て」等、関心のあるテーマを選んでグループに分かれ、「もし将来、住むなら、働くなら、10年後の瑞穂区はどのようなまちになってほしいか」を考えて意見交換をしました。これらの学生の意見やアイデアは、瑞穂区の現状や課題、将来像とその実現に向けた中長期の取り組みをまとめた第2期「区将来ビジョン(令和6～10年度)」の策定にも生かされています。

学生たちは、他大学の学生との交流を通して刺激を受けたり、自身のキャリアプランやライフプランを考えたりする良い機会となったようです。

(文責：総合科学研究所事務)



テーマごとにグループに分かれて自由に意見交換



10年後の瑞穂区へのエール

編集後記

地域連携ニュースレター第7号をお届けします。令和5年度も名古屋市や瑞穂区役所、コープあいちとの連携や、地域の高齢者や子どもたちを対象とした多くの活動について、大学各学部、図書館、越原記念館等から報告されました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。コロナ禍を乗り越え、活気ある明るい一年が期待された令和6年ですが、元旦の能登半島地震により、災害に対する備えの重要性を改めて痛感する年明けとなりました。日ごろから地域連携活動を通して、産官学ならびに地域住民の方々との相互理解を深めておくことも、災害時の備えにつながるように思われます。今後も様々な地域連携活動が継続していくことを期待いたします。

(文責：山中なつみ)